



本日のワークショップのご案内

「男女共同参画社会」の実現のために 何をすべきか考えてみましょう

あま市男女共同参画プラン策定に向けた職員ワークショップ

7月27日（月） 09:00～11:00（120分） | あま市 職員研修

3 本日のタイムスケジュール



開催：令和8年7月27日 9:00～11:00

1 なぜこのワークショップを行うの？

— ねらい —



男女共同参画社会の推進に向けて

いろいろな 私でいい あなたでいい
みんなが笑顔で活きるまち

あま市では、「あま市男女共同参画推進条例」に基づき、次の5つの基本理念を掲げて施策を推進しています。

- (1) 男女の人権の尊重
- (2) 社会における制度又は慣行についての配慮
- (3) あらゆる分野における方針の立場決定への参画
- (4) 家庭生活における活動とそれ以外の活動との両立
- (5) 国際的視野の下での取組

気づかぬうちに、こんな場面が...

行政の慣習

言葉選び

無意識の思い込み

によって、市民がやりづらさや気まずさを感じてしまう場面が隠れているかもしれません。

今日は...

「市民の視点に立ったとき、どんな配慮があればもっと男女共同参画が進められるか」を職員同士で語り合い、日頃の業務をより良くするための視点を持ち帰る機会とします。

2 今日のゴール

— 目指す姿 —



01

知る・理解を深める

男女共同参画に向けた課題を整理しながら、当事者が感じている不満や不安について理解を深める。



02

気づく

市役所の日常業務や窓口の中に潜む、「見落とされがちな配慮のポイント」に気づく。



03

行動につなげる

市民一人ひとりの権利や立場、考え方を尊重した、明日からの親身な対応につなげる。



テーマ ①

男女共同参画社会の実現に向けた課題

男女共同参画社会の実現に向けて 様々な分野で実現を阻む課題は何だろう？

やること

1

模造紙を囲む

模造紙をグループで囲みます

2

付箋に書き出す

次にご紹介する男女共同参画社会を推進していく12の分野を参考に「男女共同参画社会実現に向けた課題」を書きます

3

貼り出して共有

書いた付箋を模造紙に貼り出し、グループ内で共有します

グループ(A)

施設

- ・ 室内で親子ですごせる場所
- ・ トイレ・更衣室
- ・ 男女性差・体調

育休

- ・ 育休取りづらい・復帰難しい
- ・ 女性の育休期間空けの職場の受け入れ
- ・ 出産・育児
- ・ 育休中のケンカ

家事・育児・仕事の両立

- ・ シングルマザーの仕事復帰と子育ての不安
- ・ 家事・育児の女性負担+社会で就労
- ・ 家事・育児と仕事の両立

(育児・働き方と重複)

- ・ 子育て中の就職活動

貧困

- ・ 女性の貧困 離婚後、母子の貧困家庭が多い。
- ・ 子どもの収入

潜在意識

- ・ 家庭や社会で一般的に求められる姿

- 工業科・工業高校などの男女比

グループ(B)

働き方

- 男性の育休取得のしやすさ→男性も育休がとれないと女性の働き方選択が難しい
- 職業の選択や勤務時間
- 休みの取得
- フレックス制・週休3日制など多様な働き方を企業が提案する

(育児・働き方と重複)

- シングルマザーの就労→子がいると働き方に制限が生じる→経済的自立が難しい
- 育児によるキャリアの制限
- 男性・女性の育休期間の違い

育児

- 女性は出産・育児があるので、体調の変化が生涯を通じてあるので大変
- 1人で育児は大変 家族の協力は必要

力

- 男女で体格等の差はどうしてもあるので、暴力とまでいかななくても圧を感じることはあるのではないかな。
- 力や体格の違い

市役所

- キッズスペースが開放的・物が無い→子どもが走り回りやすいため危険
- 授乳室が分かりにくい
- 遊ぶスペースが市民課から遠い

グループ(C)

貧困

- 一人親世帯へのフォロー

社会進出

- 女性議員や管理職の少なさ
- 昇格
- 出産によるライフステージの変化
- 結婚・出産・育児で仕事を辞めた人の再就職

役割

- 子どものケガや病気で学校から呼び出しがあり、休みを取るのは母親の方
- 男女の役割分担に対する思い込み

地域社会

- 公園のトイレ全部、洋式にすべきかどうか



テーマ②

課題の解決に向けた取組

市民の立場に立った時、行政として どんな取組が必要だろう？

テーマ①で模造紙に出た課題を見ながら、グループで考えます

“

もし自分が当事者なら、窓口や手続きの
どんなところに「壁」を感じるか

“

もっと配慮できる点は
ないか

グループ(A)

家事・育児・仕事の両立

(家庭)

- 女性相談
- 家庭・家族支援
- パパママ教室→パパも参加しやすい

(仕事)

- 就労支援
- 育児中の人への採用への会社支援

(貧困・仕事と重複)

- 手当て

育休

(育休支援)

- 育休復帰後の職場の理解・受け入れ
- 育休者のフォローについて。フォロー者への支援・配慮
- 男性育休を取りやすい職場づくり

(育休制度)

- 育児休業制度の拡充
- 男性育休 収入面の支援
- 育休から復帰 制度の正しい理解
- 様々な制度の簡素化

施設

- 保育施設の整備
- 児童施設
- 就労のための保育(こどもの)
- 職場環境?女性目線の設備

グループ(B)

働き方

- 育休の人数減での仕事量増加に対する手当て→育休とりやすく

育児

- 育休期間の手当てとずっともらえるようにする
- 保育施設・保育サービスの充実
- 就労支援→短時間でも働けるところ、託児所があるところに特化してつなげられるように

(黄色い丸、分野名記載なし)

- 身を守るグッズ
- 力の差や体格は変えられないので、それぞれが出来ることをやる。

市役所

(分野をまたぐ単独付箋)

- 1ヵ所への相談で使える制度が全てわかるように(AI等の充実)

(手続き)

- 手続きのオンライン化
- ホームページの問い合わせなどへのAIの活用(チャットなど)
- お母さん1人で子を市役所につれてくるのはハードルが高い人もいると思うので何か対策するとよい、オンライン化
- 窓口で赤ちゃんが大泣きしている時、手続きを急いで進めるが、それで良いのか迷う
- 子どもが大声で叫んでいるのを聞くと周りの他の市民の反応が気になる時がある

(案内)

- 案内板をわかりやすくする、場所の表示を目立たせる
- キッズスペースや子ども用おもちゃを充実させ、親子で来庁しやすい空間作り
- 窓口にも授乳室の案内を設置する
- 床に導線を引く
- 外国人への案内をわかりやすくする

グループ(C)

- 周知
- AI 対応

社会進出

- 育休取得 月単位、年単位ではなく、週 1 回 etc.選択できるという

役割

- 思い込みで決めつけずに、聞き取りをしっかりとる

発表・まとめ

【グループ A】

育児休業制度の取得しづらさや休業中の収入面での不安、それに伴う女性の貧困やシングルマザーの就労困難など、仕事と家庭の両立における多角的な課題が共有されました。また、固定観念による家庭や社会での役割分担の偏りも、根本的な問題として浮き彫りになっています。

これらの解決に向け、男性の育休取得を促す職場環境の整備や、復帰支援を含む仕事と育児の両立サポートが提案されました。あわせて、パパママ教室の活用や当事者に寄り添った就労相談の拡充など、支援制度をより使いやすく周知していく取り組みが重要であると結論付けられました。

【グループ B】

フレキシブルな働き方の不足や育児によるキャリア制限といった労働環境の課題に加え、庁舎内の授乳室の位置が分かりづらい点や、窓口対応時のキッズスペースの不備など、市役所の施設・手続きにおける利便性の低さが課題として指摘されました。

解決策として、育休取得者をフォローする手当の創設や短時間勤務に対応した託児支援の拡充が挙げられました。さらに、各種手続きのオンライン化を推進して子連れの来庁負担を減らすことや、分かりやすい案内標識の設置、AI を活用したワンストップ相談窓口の整備など、市民目線に立った環境改善が必要であるとまとめられました。

【グループ C】

女性議員や管理職の少なさに象徴される意思決定層への参画不足や、ライフステージの変化に伴う再就職の難しさに加え、学校からの急な連絡が母親に偏りがちであるといった意識・慣習面での不平等が課題として挙げられました。また、一人親家庭の困窮や地域施設の配慮不足など、多岐にわたる問題が共有されました。

これらの問題に対し、月単位や年単位にとどまらず週 1 回単位など柔軟に取得できる育休制度の導入や、思い込みを排除した丁寧なヒアリングの徹底が提案されました。また、言語

や心理的ハードルを下げる AI 窓口の活用や、住民向けの講座を通じた意識改革を進めていくことが有効であると締めくくられました。



みんなが笑顔で生きるまち "あま市"へ

「もし自分が当事者だったら」の視点を、明日からの窓口対応へ。

おわりに：まとめ／アンケートの記入（5分）